

がんばる農家プラン
～中山間地の集落営農法人が
がんばるプラン～

作成年月 平成26年度5月

作成者 農事組合法人かわかみ

中山間地の集落営農法人ががんばるプラン

作成者 農事組合法人かわかみ

理事 新 徹

事業主体 農事組合法人かわかみ

1. はじめに（プラン作成に至った経緯）

私たちは、日野郡日南町■■■■集落で農業をしています。■■■■集落は、山に挟まれた谷沿いにあり、農地も川沿いに縦長に存在し、日照条件も悪いため中山間地の中でも営農条件としてはあまり良くありません。集落には約 12ha の水田があり、主に水稻とソバが作付されてきており、大きな担い手がなく、個人による営農が行われてきましたが、高齢化等により機械作業ができる人が少なくなってきたため、平成 13 年より任意受託組織を立ち上げ、集落内で協力し合って作業をしてきました。

しかし、高齢化と過疎化が進行していく中で、集落内で作付けができない農地が発生した場合、個人による利用権設定のリスクは高く、場合によっては他の地域からの耕作者が入ることになります。そこで、集落の皆で今後の河上の農業について何度も寄り合い検討したところ、「できる限り自分達で河上の農地を守ろう」という結論になり、平成 26 年 1 月に農事組合法人かわかみを設立しました。

ただ“守り”の姿勢だけでは本当の意味で集落は発展できないため、“攻め”の農業をしていこうと、法人設立をきっかけに、水稻の自家育苗やピーマン栽培など新たな取り組みを行うことにしました。法人運営もおぼつかない私たちには大きな決断でしたが、普及所等の指導機関の協力を得ながら構成員で力を合わせて取り組んでいきます。更に、平成 27 年度からは施設トマトにも取り組もうと計画をしています。

法人はあくまでも“耕作ができなくなった農地の受け皿”であるため、規模拡大については集落内を対象と考え、いずれは集落内の全ての農地が法人に集積することを考えています。

しかし、法人設立当初のため資金力に乏しく、新しいことにチャレンジするには行政等の支援が必要なため、応援をお願いするため今回がんばる農家プランに申請しました。

○農事組合法人かわかみの経営概要（平成26年4月末現在）

資本金	5,720千円
法人設立	平成26年1月
事業年度	1月1日から12月31日まで
構成員数	22戸
経営面積	360a 借地
作業受託面積	耕耘400a、荒代350a、植代500a、 田植550a、収穫450a
主要栽培作物	水稲、ソバ、露地ピーマン

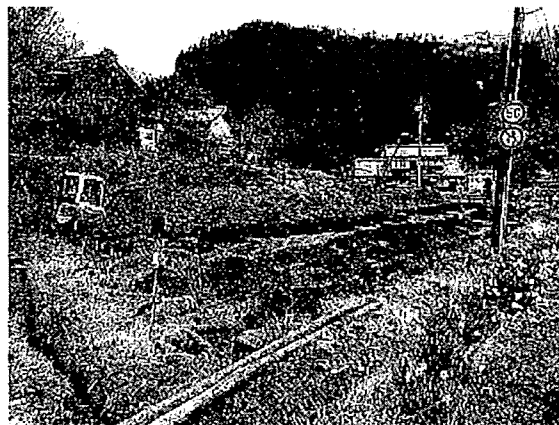
○施設・農業機械所有状況（平成26年4月現在）

機械・施設名	台数	能力・年式等	導入年度	備考
動力噴霧機	1台	6ps	H13	
トラクター	1台	30ps	H14	
ロータリー	1台	170cm	H14	
畦塗機	1台		H16	矢戸組合と共有
ローリーモブ:自走	1台	7ps	H16	矢戸組合と共有
田植機:側条	1台	6条	H18	
コンバイン	1台	3条	H21	
草刈機	2台		H23	
ドライブハー	1台	281cm	H23	
強管ハウス	2棟	1.2a(6m×20m)	H26	

※法人化を機に任意組織より無償譲受する予定。



1. 法人化検討会の様子



2. 新たにピーマン栽培を始める圃場づくり

2. 生産経営の現状・課題

1) 生産経営の現状 (平成 26 年度)

《経営規模》

自作地	借入地	合計
0 a	360 a	360 a

《作目》

水稲	ソバ	ピーマン
90 a	260 a	10 a

《作業受託》

耕耘	代掻き	田植え	稲刈り
400a	荒代 350a 植代 500a	550 a	450 a

《主な労働力》

労働力	続柄	現状	備考
新	理事	150 日	経営管理、水稲、ソバ、ピーマン
	構成員	90 日	水稲、ソバ
	構成員	90 日	水稲、ピーマン
	構成員	90 日	ピーマン

《年間作業スケジュール》

品目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水稲	播種・育苗 防除 耕耘・代かき 畦畔草刈 田植え 除草剤散 収穫・ 梱運搬											
ソバ	鶏糞散布・ 額縁明渠 播種 収穫											
露地 ピーマン	堆肥散布 元肥 定植 仮支柱立 整枝 → 防除 → 収穫 →											
雨除け トマト (参考)	堆肥散布 畝立・ 支柱立 定植 誘引・摘果 → 収穫 →											

2) 営農における課題等

① ピーマン出荷調整の作業場及び機械格納庫

法人設立により、新たに露地ピーマン栽培に取り組むことにしていますが、収穫後の出荷調整を行う作業場がありません。ピーマンは収穫後、選果や箱詰めのため行程が必要で、河上集落からJA出荷所まで(約9km)を昼12時までには運搬する必要があります。また、ピーマンの出荷は最盛期にはほぼ毎日に及ぶこともあり、集落の女性や高齢者の出役も予定しているため集落内で出荷調整できる作業場が必要です。

更に、任意組織では個人に賃借料を払うことで機械の格納を委託していましたが、各農作業機械の場所が離れているため整備や作業効率の面で不便を感じています。また、現状の格納庫は防犯機能がないため、盗難防止上の不安も抱えています。

② 規模拡大に伴う機械の整備

今後、集落内を中心に水稻の規模拡大を計画していますが、現在所有している機械の能力では作業が追い付きません。

今は個人で所有する機械で作業を行う人がいるため作付面積と受託面積の作業を行っていますが、今後、個人で機械更新をした場合に、集落全体での減価償却費が高額となり対策が必要です。

また、作業受託は集落外も予定していますが、農業用機械を移動させる際には農道がなくコンバインや田植機で国道を走ることとなり危険です。

③ ソバの反収向上

集落内で集約した農地の転作作物はソバであり、経営スタート当初は面積割合の多くを占めます。ソバは収量が安定せず、つつい粗放栽培となりがちですが、今後、町はソバ反収向上を目的に鶏糞散布、額縁明渠を行った農家に対して政策的な支援が始まるため、鶏糞散布のための機械を導入して鶏糞を散布することで、安定的なソバ栽培を行う必要があります。

④ 収益性の向上とコスト削減

限られた農地の中で水稻などの土地利用型作物のみで収益性を高めていくのは、今後の米価や米直接支払制度の廃止による収入減少を考えると難しいと考えます。収益性の高い品目に新たに取り組み、同時に自家育苗に取り組むなどして、(現在はJAから育苗苗を購入)少しでもコストを削減していくことが課題と考えています。

3. 生産経営等の改善内容（目標）と効果

1) 改善内容と目標値

①ピーマン出荷調整の作業場及び機械格納庫

集落内にピーマンの出荷調整できる作業場を整備します。

また、作業場と同じ建物に法人の機械を格納する格納庫を整備します。

②規模拡大に伴う機械の整備とコスト削減単収の向上

規模拡大に伴う機械能力不足を補うため、トラクター（34ps）を新規に導入します。オペレーターは法人の構成員で対応が可能です。規模拡大については、利用権設定は主に集落内を、作業受託は主に集落外（日野上校区）を想定しています。集落外へ機械を運ぶには国道を通る必要があるため、汎用トレーラーを導入します。

また、法人化をきっかけにコスト削減を目的にした自家育苗（播種含む）を行います。

③ソバの反収向上

反収向上に向けて鶏糞を散布するためにブロードキャスターを導入します。

④収益性の高い品目栽培

H26年から栽培開始する露地ピーマンに続き、雨除けトマトに新たに取り組みます。

<目標値>

項目	現状 (H25)	(H26)	(H27)	(H28)	目標 (H29)
露地ピーマン栽培	—	10 a	10 a	15 a	15 a
自家育苗への取組み	—	新規開始 ハウス2棟	ハウス3棟	ハウス3棟	ハウス3棟
ソバの反収向上	—	45kg/10a	50kg/10a	55kg/10a	60kg/10a
雨除けトマト栽培	—	3 a	3 a	3 a	3 a

2) 事業効果

①ピーマン出荷調整の作業場

集落内の女性や高齢者の出役が可能になるため、集落内労働力に労務賃を支払うことで集落が潤うだけでなく、働くことで生きがい対策にもなります。

集落内の人材をフル活用して、集落に活気がもどることを期待しています。

②格納庫の整備

鍵付きシャッターを備えた格納庫を整備することで防犯効果が期待されます。何よりも、一カ所に農業用機械があることで利便性も高まり、メンテナンスやその他管理も行いやすくなります。

このことにより、農業用機械の寿命が少しでも長くなることが期待できます。

③自家育苗の開始

播種作業から自分達で作業することで、JA育苗センターに委託管理していることに比較して削減コストは単純計算で育苗箱1枚あたり約400円の削減が見込め、10ha分(約1,800枚)の育苗をする場合、約72万円のコスト削減となります。

また、播種作業や水やりなどの育苗管理にかかる人件費は構成員に担当することができます。

④ブロードキャスターの導入

ソバ反収の向上が期待できるだけでなく、町の支援(産地交付金)を受けることで農業収入を増やすことができます。

更には、水稻栽培における土壌改良材等の施用にも活用できます。

⑤野菜栽培の開始

■集落での法人経営を開始するにあたり、水田面積が限られているため規模拡大による収益アップには限りがあります。露地ピーマンや施設トマトに取り組むことで、限られた農地を最大限に活用して収益性を高めることができます。

⑥地域の活性化

担い手のいない地域で、集落が皆でまとまり、農地・集落を維持することができます。小さい集落でも収益を確保していくことが証明できれば、他集落でも同様の動きが生まれ、地域が活性化していくことが期待できます。

4. 目標達成に向けた取り組み（年次別の行動計画）

項目	内容	H26	H27	H28	H29
規模拡大	集落内の水稲作付面積の増	○	→	→	→
労働力の有効利用	地域の合意により、法人内での仕事配分を行う	○	→	→	→
露地ピーマン栽培		○	→	→	→
施設トマト栽培			○	→	→
自家育苗の開始		○	→	→	→
作業小屋兼格納庫の整備	がんばる農家プラン事業で導入	◎			
トラクター34ps 導入	がんばる農家プラン事業で導入		◎		
ブロードキャスターの導入	がんばる農家プラン事業で導入		◎		
汎用トレーラーの導入	がんばる農家プラン事業で導入		◎		
水稲播種機の導入	がんばる農家プラン事業で導入		◎		

※ ◎は県、町の支援が必要なもの（がんばる農家プラン事業）

5. 機械・作物の年次別計画

年度	H26	H27	H28	H29
機械・施設 導入計画	作業場兼格納庫 の導入 (6,730千円)	トラクター34ps ブロードキャスター 汎用トレーラー 水稲播種機 の導入 (6,690千円)	—	—
対象作物 の生産計 画	水稲 90a ソバ 260a ピーマン 10a トマト 0a 作業受託 耕耘 400a 荒代掻き 350a 植代掻き 500a 田植え 550a 刈取り 450a	水稲 350a ソバ 260a ピーマン 10a トマト 3a 作業受託 耕耘 300a 荒代掻き 300a 植代掻き 400a 田植え 450a 刈取り 350a	水稲 700a ソバ 260a ピーマン 15a トマト 3a 作業受託 耕耘 300a 荒代掻き 250a 植代掻き 400a 田植え 350a 刈取り 300a	水稲 750a ソバ 260a ピーマン 15a トマト 3a 作業受託 耕耘 250a 荒代掻き 230a 植代掻き 350a 田植え 300a 刈取り 250a

6. 支援事業の内容

(単位：円)

内容	事業費				負担区分
	H26	H27	H28	H29	
作業場兼格納庫	6,730,000				県 1/3 町 1/6 本人 1/2
トラクター (34ps)		5,179,000			
ブロードキャスター		373,000			
汎用トレーラー		728,000			
水稻播種機		410,000			

※補助残部分は自己資金で対応

7. 添付資料

- ほ場図
- 導入機械カタログ、見積書
- 特定高性能機械等の規模決定根拠
- 3年間の経営試算